

## 〔 授業概要 〕

授業科目名 (英語名)	人的資源管理論 (Human Resource Management)
授業のねらい・概要	企業の経営活動は、ヒト、モノ、カネという経営資源のいずれを欠いても成り立たない。とりわけ、ヒト（すなわち人的資源）については、たとえ社会の情報化が進んでICTやIoTが企業の経営活動に浸透し、いざいAIが支配するようになったとしても、ヒトが存在しない企業など想像できないであろう。経営学分野の応用科目にあたる本授業では、この経営資源のうち人的資源を円滑に管理することで、企業が掲げる経営目標を達成し、持続的な成長を遂げるうえで、どのような管理が行われているのかを、理論、制度、現状にわたって多面的に学ぶ。
授業科目名 (英語名)	中小企業論 (Small Business Management)
授業のねらい・概要	これまでの中小企業論や中小企業経営論の研究成果をもとにしながら、経営学の視点から中小企業のマネジメントを講義する。
授業科目名 (英語名)	グローバル経営論 (Global Management)
授業のねらい・概要	今日、経済活動は、国内に留まることなく、国家の枠組みを超えて海外にまで拡大している。その担い手こそが企業であり、「多国籍企業」や「グローバル企業」などと呼称される存在である。本授業では、この多国籍企業を核として、その理論、歴史、現状にわたる多方面からのアプローチを試みつつ、改めて企業＝経済がグローバル化することの意味を考究する。
授業科目名 (英語名)	総合英語 I (Integrated English I)
授業のねらい・概要	現在、英語は英語圏のみならず世界中で用いられる国際語です。日本でも英語コミュニケーションの素養があれば、仕事や研究活動に非常に役立ちます。英語によるコミュニケーション能力を育成するのが本授業の狙いです。 この授業では、これまでの1年生の英語の授業で培った英語の四技能と呼ばれるリスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの能力を更に高めしていくことを目標とします。また、外国人教師の授業を通じ、英語という言葉以外にも、英語圏の文化や習慣にも触れていきます。
授業科目名 (英語名)	資格英語 II (基礎) (English Language Qualification II (Intermediate))
授業のねらい・概要	英語を学ぶことは、自分の物事に対する見方や考え方を広げ、人間性を高めることに大きく貢献します。また、英語を学ぶことで、私たちが暮らしている日本を深く学ぶことにもつながっていきます。さらに、異文化間の相互理解を深められます。 その英語の力をつけるためには、「地道に」、「時間をかけて」、「どれだけ多くの英語に触れるか」、「どれだけ多くの英語を使うか」ということが必要とされます。努力があって初めて英語の力がついていきます。 この授業では、資格英語 I に引き続き、将来のTOEICテストを見据え、「読む」と「聴く」技能を中心に、総合的な英語力の向上を目指します。授業では、初中級レベルのTOEICに準拠した問題から始めて、徐々にレベルを上げ、最終的にはTOEIC 500点レベルまで学力を上げることを狙いとします。 <授業の概要> (1) この授業ではTOEICに準拠したテキストを用いて学習します。 (2) 教科書に関連する内容のリスニングを行います。 (3) 高校までで学習してきた英文法の復習と演習問題を行います。
授業科目名 (英語名)	資格英語 II (応用) (English Language Qualification II (Advanced))
授業のねらい・概要	英語を学ぶことは、自分の物事に対する見方や考え方を広げ、人間性を高めることに大きく貢献します。また、英語を学ぶことで、私たちが暮らしている日本を深く学ぶことにもつながっていきます。さらに、異文化間の相互理解を深められます。 その英語の力をつけるためには、「地道に」、「時間をかけて」、「どれだけ多くの英語に触れるか」ということが必要とされます。努力があって初めて英語の力がついていきます。 この授業では、将来のTOEICテストを見据え、「読む」と「聴く」技能を中心に、総合的な英語力の向上を目指します。授業では、初中級レベルのTOEIC Bridge準拠の問題から始めて、徐々にレベルを上げ、最終的にはTOEIC500点レベルまで学力を上げることを狙いとします。 <授業の概要> (1) この授業ではTOEICに準拠したテキストを用いて学習します。 (2) 輪読形式で英文読解を行います。 (3) 高校までで学習してきた英文法の復習と演習問題を行います。
授業科目名 (英語名)	会計学 (Accounting)
授業のねらい・概要	企業会計の全体像を説明し、企業会計が果たす社会的な役割を理解してもらいます。つぎに、損益計算や資産負債会計について、仕訳の意味を理解してもらうことを中心に講義します。また、今後の上級簿記の学習に役立つような会計学基礎力の習得を意識した授業を行います。
授業科目名 (英語名)	基礎簿記論 (Basic Theory of Bookkeeping)
授業のねらい・概要	簿記は、経営情報システムの一つです、言い換えれば企業が行う経済活動を記録する仕組みです。本講義では、初めて簿記を学ぶ学生を対象に、会計と複式簿記の基本的考え方について学びます。

## 〔 授業概要 〕

授業科目名 (英語名)	システム演習Ⅱ (System Practice Ⅱ)
授業のねらい・概要	コンピュータシステムは現代社会に必要な不可欠なものとなっています。本講義では、コンピュータシステムを構成するLinuxサーバを構築、管理の基礎を習得していくことを目的としています。将来、情報系の企業などでサーバ関連の仕事や情報系の大学に進学予定のものにとって必要な基礎知識となります。また、学部の目的である「情報の取捨選択能力と活用能力」に関連します。
授業科目名 (英語名)	データベース演習 (DataBase)
授業のねらい・概要	パソコンのアプリケーションソフトを用いて、データベースの作成、利用方法についての演習を行う。データベースの概念と利用技術を習得する。
授業科目名 (英語名)	経営統計学 (Statistics for Business Management)
授業のねらい・概要	企業経営の重要な活動であるマーケティングや意思決定において、統計学は活動を合理的に行う上で必須のツールとなっている。統計学の基礎的な理論を学び、統計学を正しく利用できる基礎を養うことを目的とする。統計学の基礎理論と活用についてバランス良く取り上げ、非常に強力で、時には危険な「道具」となる統計学を、正しく、安全に利用できるようにする。
授業科目名 (英語名)	日本経営論 (Business Management in Japan)
授業のねらい・概要	新型コロナウイルスの影響により、日本を企業を取り巻く企業が大きく変化し、新たな企業経営の在り方が問われている。そこでポストコロナ時代における日本企業の取組みや実態といった経営事情について、歴史、政治、文化、市場など経営環境を踏まえながら理解を深める必要がある。特にコロナ以前・コロナ以後を比較して、日本企業の経営の実態を明らかにする。そこで日本の経営システムにおける企業のダイナミズムに着目し、経営の理論を幅広く交えながら多角的に分析する必要がある。就職を目指す学生には日本企業の最新の動向を知る機会を用意する。また編入学を目指す学生には、経営学の基本的知識を日本企業の事例に触れることで応用力を養い、問題発見能力を涵養する機会を提供する。
授業科目名 (英語名)	地域語の世界 (The Current State of Japanese Regional Dialects)
授業のねらい・概要	①これから社会人になって正確な日本語を操るには、その土台として、自身の使っている言語を正しく認識する能力を身につける必要があります。 ②そのために、日本語の現状を学んでおくことはとても有効です。 ③日本人が日常生活の中で使っていることばを、さまざまな面から見てゆきます。 ④高等学校までの「国語」とはかなり趣の異なる科目です。 ⑤皆さんが普段、喜んだり、悲しんだり、怒ったり、笑ったりするときを使うことばの実態を、いろいろな角度から整理してお話します。
授業科目名 (英語名)	OA論 (Office Automation)
授業のねらい・概要	本講義では、OA(オフィスオートメーション)を広い意味での経営情報システムにおけるEUC(エンドユーザコンピューティング)として捉え、このEUCの仕組みを修得することを目的とする。また、経営情報学科の卒業生として期待される、「職場の情報化」に携わる者に必要な、情報関係資格に関する事項も授業で扱ったトピックスに関して解説する。また、学部の目標である「実社会に有用な知識と確かな専門技術の修得」に関連する。
授業科目名 (英語名)	アルゴリズム論 (Computer Algorithms)
授業のねらい・概要	この科目はプログラミング演習I、IIの内容をベースとし、プログラミング能力を身につけるために、C言語を用いた主なアルゴリズムとデータ構造について学習をする。
授業科目名 (英語名)	デジタル回路 (Digital Circuit)
授業のねらい・概要	コンピュータ概論で学習したコンピュータ内部の構造とさまざまな入出力機器について、その内部構造をより深く理解するために必要な知識を身につけることを目的とします。具体的には、論理回路、論理演算、2進数、16進数等のハードウェアの理解に必要な基本を学習します。さらに、その基本を応用した組み合わせ回路、順序回路等についても学習することで、ハードウェアに関する理解がソフトウェア上でも有効であることを説明していきます。また、この学習を通して、プログラミング演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに対する理解を深めることも、この科目のねらいとなります。プログラミング技術が高度になるにしたがい、コンピュータ内部構造の知識は重要となるため、更なるプログラミング理解の基礎となるようことを目標としていきます。
授業科目名 (英語名)	ビジネスゲーム (Business Games and Case Studies)
授業のねらい・概要	企業が直面している問題を発見したり解決する能力を習得するために、企業の事例を検討することが必要になる。そこで経営科目群等の講義を通じて学ぶ企業経営の知識を活用し、事例を用いた議論を通じて企業活動の理解を深めることを目的とする。演習の過程で必要な情報を収集し、その結果を分析し、ディスカッションすることでより理解を深める。
授業科目名 (英語名)	言語表現論 (Several Kinds of Methods of Linguistic Expression)
授業のねらい・概要	①言語表現の基礎的意義を学習します。 ②音声言語表現の諸要素について学習します。 ③音声言語による談話構成方式を学習します。 ④文字による自然言語の表現について学習します。